

# 豊かな人格

## 広い国際感覚を」と

### 海外研修行こう

千葉県教育委員会は、青少年指導者洋上研修（中華人民共和国へ船で九泊十日の研修）を毎年行っており、光町からも参加してはいますが、町でも、今年の四月に光町の未来を担う青少年に豊かな人格と広い国際感覚を備えてもらうことを目的として海外視察研修制度を発足しました。第一回目となった今年の視察地は、オリンピックの開催地ソウルでした。

洋上研修は七月二十四日から八月四日まで行われ、加瀬博さん（傍示戸）・山崎義則さん（台）・伊藤敬一さん（尾垂六区）・大木幹夫さん（木戸）の四人が、九月二十一日から二十四日まで行われた町の海外視察研修には、鈴木隆志さん（宝米）・霞清和さん（台）・大木博之さん（西高野）・鈴木亨さん（宮内）・

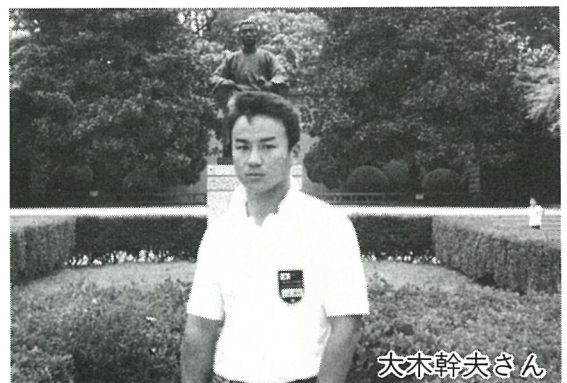
林庄一さん（古屋）・平山雅英さん（長塚）の六人がそれぞれ派遣され、海外での貴重な体験をしてきました。

洋上研修を終えて帰国した皆さんが感想文を寄せてくれましたので、ここで山崎義則さんと大木幹夫さんの感想文をご紹介します。なお、その他の皆さんの視察記は十二月発行の地下水五十一号に掲載します。

### 洋上研修を終えて

#### 大木 幹 夫

千葉県の主催する洋上研修に、町を代表して参加させていただきました。自分にとって、この十日間の研修は長いようで短く、とても良い経験をしたように思います。最初は長い船旅なので、あまり気が進まなかったのです



大木幹夫さん

が、いざ参加してみると船に酔うこともなく、友達もたくさんでき、とても楽しい船旅ができました。

上海に上陸した時には、百人もの小学生くらいの合奏隊に熱烈な歓迎を受けました。その後、我々一団は二つに分けられ、私達は列車で無錫に向かいました。無錫では、小さな子供達が絵を書いたり、歌を歌ったり、いろいろな物を作って、自分の才能を発揮している様子を見学しました。見学が終わってから日中青年交流会が開かれ、バスケットボールやバレーボール、踊りなどでお互いの交流を深めま

した。夕方には中国青年を招待して夕食会を開き、太湖遊覧をしながら話し合いました。中国青年は私達の質問に対して片言の日本語で真剣に答えてくれました。彼らはみんなしっかりとした自分の考えを持っていてとても驚きました。自分も見習わなければならぬと思いました。

無錫を後に上海に向かい、夜は雑技を見ました。雑技とは日本というサーカスのようなもので、目の前で見ると、とても迫力があり、すばらしいものでした。

中国の印象は、鼻にツンとくる臭いと、上海で見た自転

### 県内に

#### 新しい友が

#### 山崎義則

九泊十日の洋上研修。船での中国への旅。中国は、一度行ってみたい国の一つだった。しかし中国の旅といっても、現地での滞在はわずか四日間その上二百人（現地では二グループに分けられた）もの人間が一緒に行動するため、始

車のラッシュがとても強く残っています。

最後に、今振り返ってみると中国は日本から見ると二十一年くらいの生活水準差があるように思えます。これからの中国がどのように変わっていくか、自分なりにすごく興味があります。

この研修に参加させていただきありがとうございました。参加できて本当に良かったと思います。以上が主だった感想ですが、この研修で学んだことを生かし、これから町のためになるよう努力していきたいと思っています。

めからそれほど期待も持てなかった。実際、中国料理は自分の舌に合わなかった。（裏路地の食堂で食べたマーボ豆腐はなかなかうまかったが）しかし、全体的にこの洋上研修はすばらしいものだった。出発前から「今回は、どんなおもしろい人間と会えるかな。それに女の子もたくさんいるし。」と、とても楽しみにしていた。とにかく参加者四